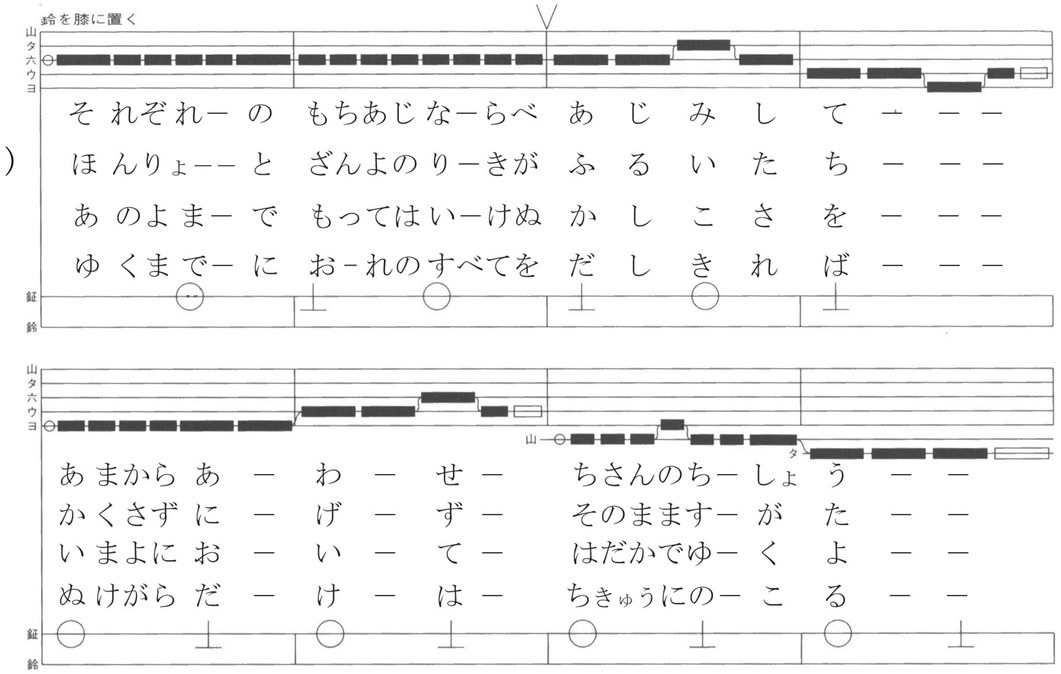
N11　全知全能の放出物語－和讃

（原曲「比叡山賛歌和讃」）



互いの特技見たいから　皆の強み持ち寄って（7・5）
あれだこれだと言ううちに　新たな絆生まれ来る（7・5）
それぞれの持ち味並べ味見して
甘辛合わせ地産の地消（5・7・5・7・7）

私の得手絞り出し　僭越ながら披露する（7・5）
貴方の振りに刺激され　もっとないかと捜し出す（7・5）
本領と残余の力が奮い立ち
隠さず逃げずそのまま姿（5・7・5・7・7）

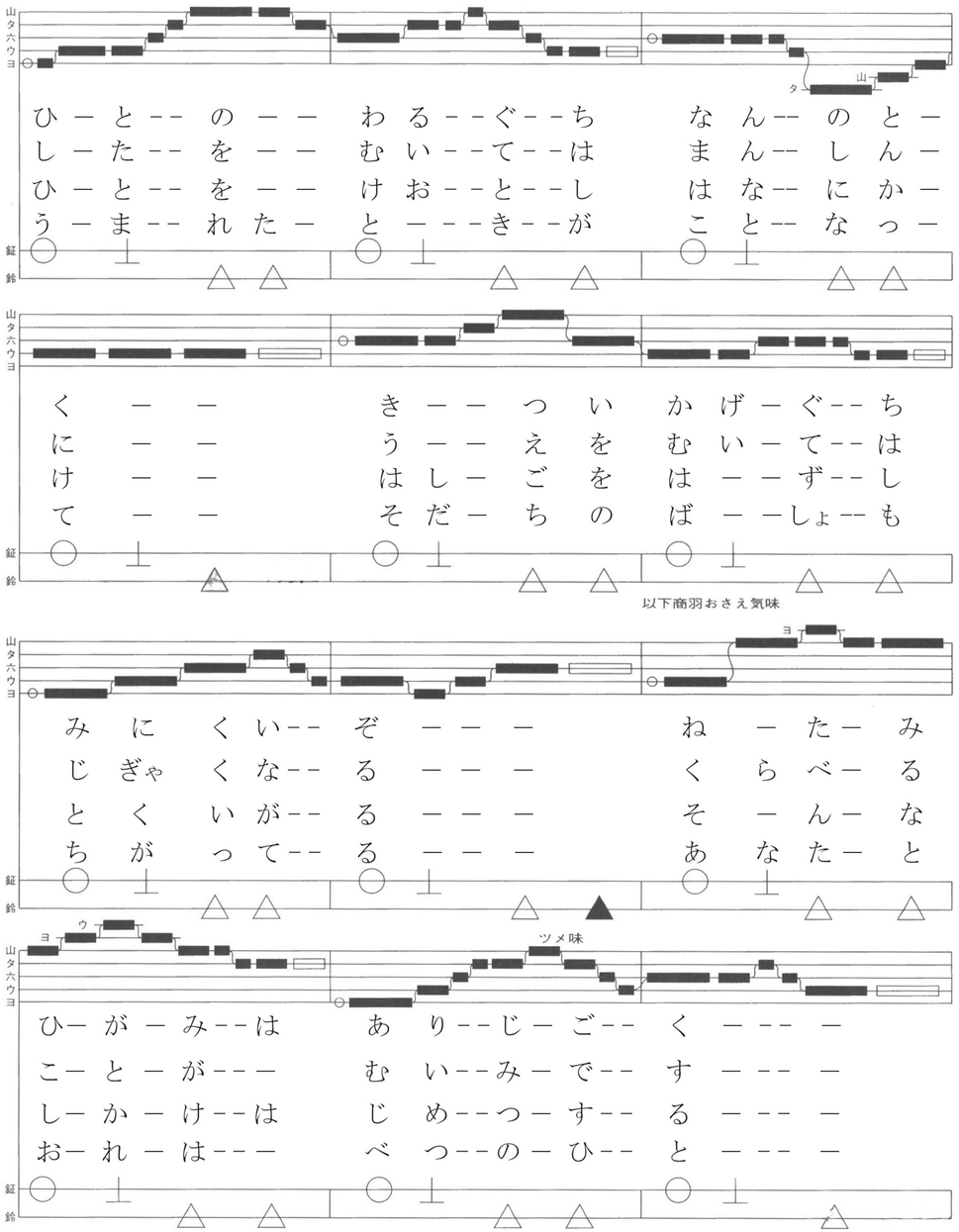
陰に日向に辛抱し　前を向いては頑張った（7・5）
一隅照らす人となり　全知を絞り世に返す（7・5）
あの世まで持っては行けぬ賢さを
今世に置いて裸で逝くよ（5・7・5・7・7）

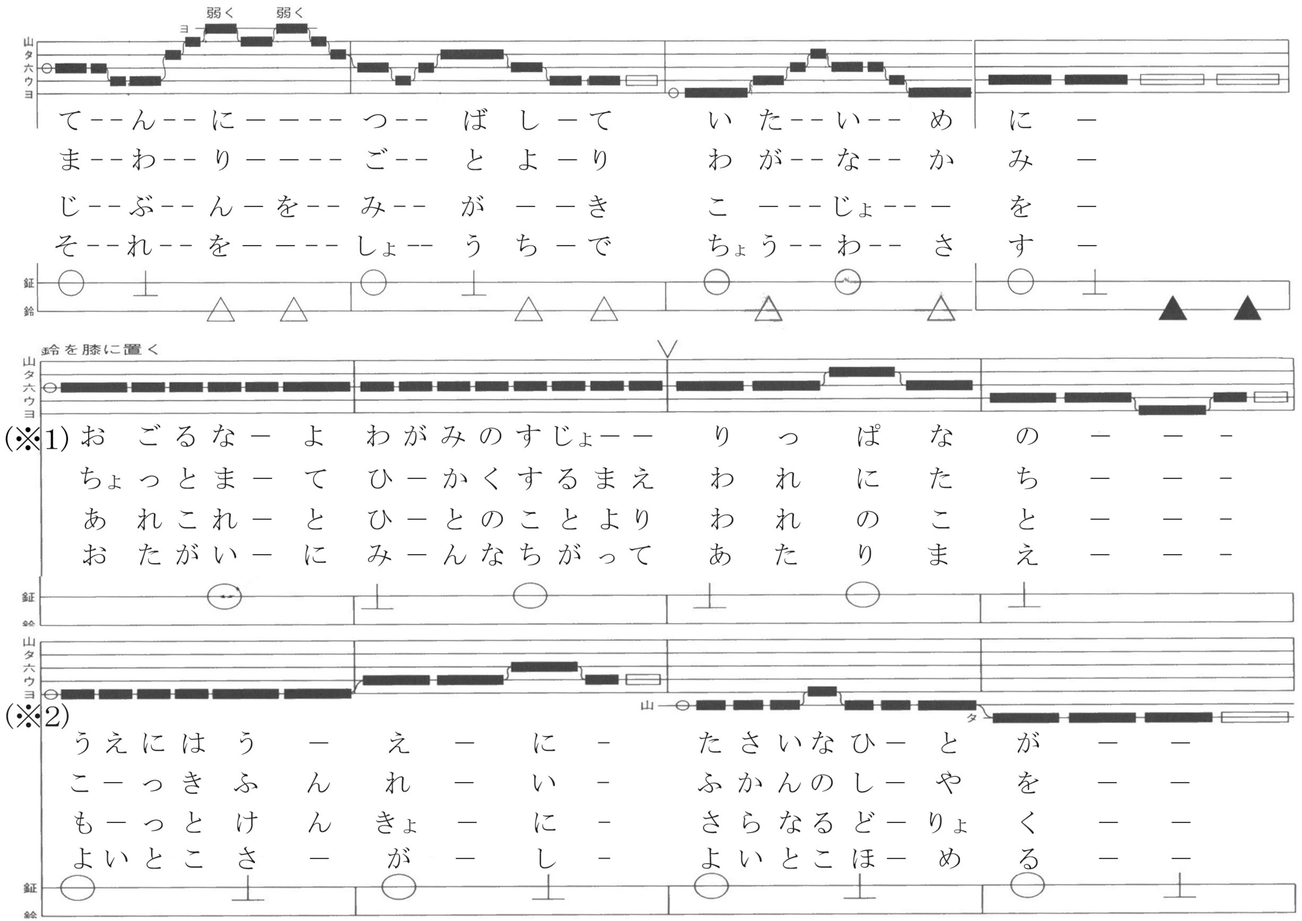
持って生まれた才能は　授かりものと思うなり（7・5）
全部を放ち世に捧げ　全部（を）吐き出し空っぽに（7・5）
逝くまでに俺の全てを出し切れば
抜け殻だけは地球に残る（5・7・5・7・7）

(注1)楽譜・原曲は福聚(ふくじゅ)教会叡山流詠歌和讃音譜集に掲載
(注2)替え歌の詩は大沼香作　2015(H27)年6月6日(土)

N12　他人の事より吾が努力ー和讃

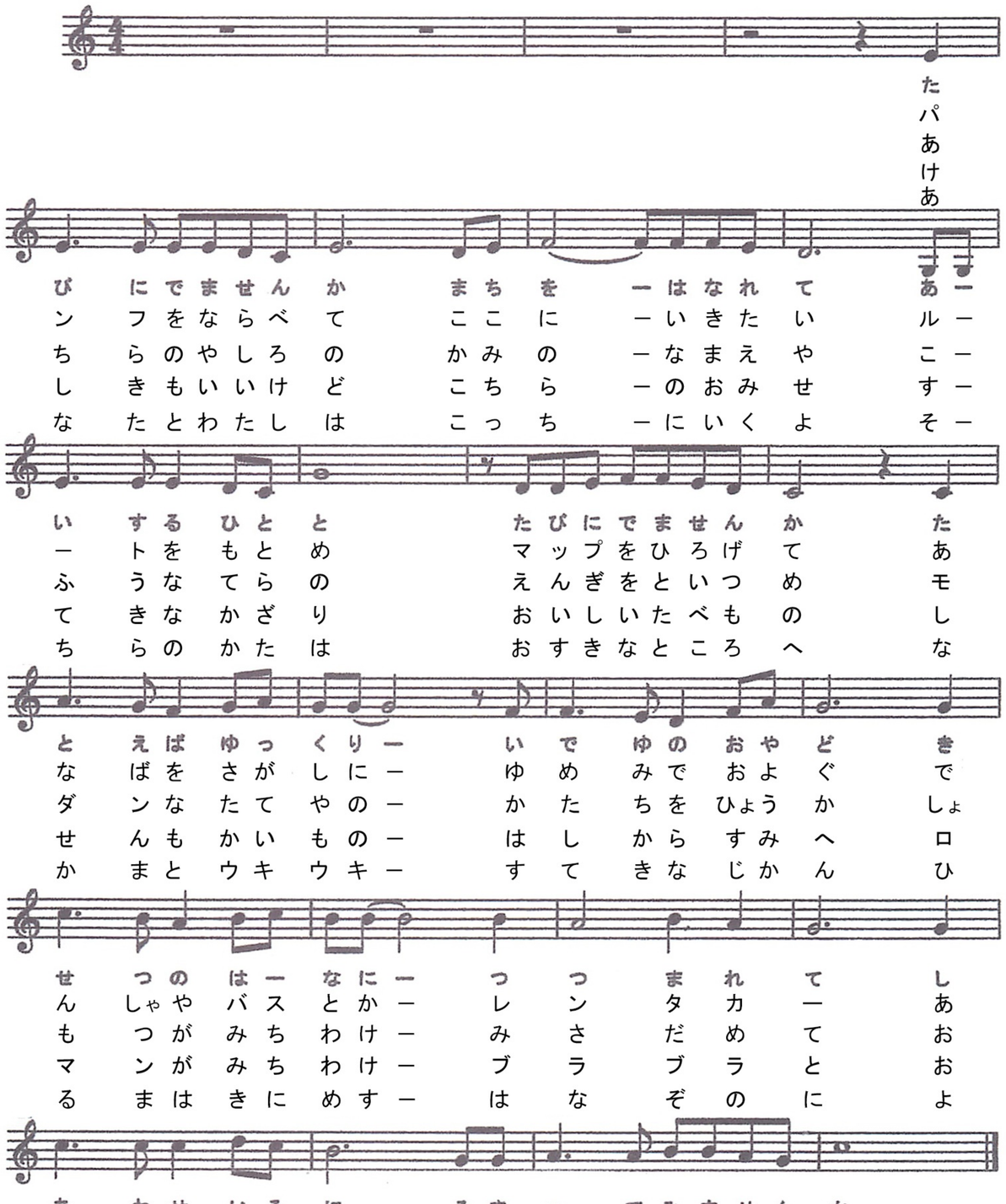
（原曲「無常の和讃」＋「比叡山賛歌の和讃（短歌部分）」




弱く　弱く
て -- ん -- に ー ー -- つ -- ば し ー て　い た -- い -- め に ー
ま -- わ -- り ー ー -- ご -- と よ ー り　わ が -- な -- か み ー
じ -- ぶ -- ん ー を -- み -- が ー ー き　こ ー -- じょ -- ー を ー
そ -- れ -- を ー ー -- しょ -- う ち ー で　ちょ う -- わ -- さ す ー
鈴を膝に置く
(※1) お ご る な ー よ　わ が み の す じょ ー ー　り っ ぱ な の ー ー ー
ち ょ っ と ま ー て　ひ ー か く す る ま え　わ れ に た ち ー ー ー
あ れ こ れ ー と　ひ ー と の こ と よ り　わ れ の こ と ー ー ー
お た が い ー に　み ー ん な ち が っ て　あ た り ま え ー ー ー
(※2) う え に は う ー え ー に ー　た さ い な ひ ー と が ー ー
こ ー っ き ふ ん れ ー い ー　ふ か ん の し ー や を ー ー
も ー っ と け ん き ょ ー に ー　さ ら な る ど ー り ょ く ー ー
こ ー っ と こ ー っ と ふ け さ ー　ふ か ら い な と こ ほ ー め る ー ー
も ー い き ょ ー ー ー　さ よ ー ー ー ー
よ ー ー ー ー

N13　旅はうれし・楽し！－歌謡曲

（原曲「旅にでませんか」）



（計画）

一、パンフを並べて　ここに行きたい（８・７）
ルートを求め　マップを広げて（７・８）
穴場を探しに　夢見で泳ぐ（８・７）
電車やバスとか　レンタカー（８・５）
あれやこれやと　楽しくプラニング（７・９）

（デジタル世界の男・・・）

二、あちらの社（やしろ）の　神の名前や（８・７）
古風な寺の　縁起を問い詰め（７・８）
モダンな建屋の　形を評価（８・７）
書物が道分け　見定めて（８・５）
男心（ごころ）は　理屈（左脳）で旅をする（７・９）

（アナログ世界の女・・・）

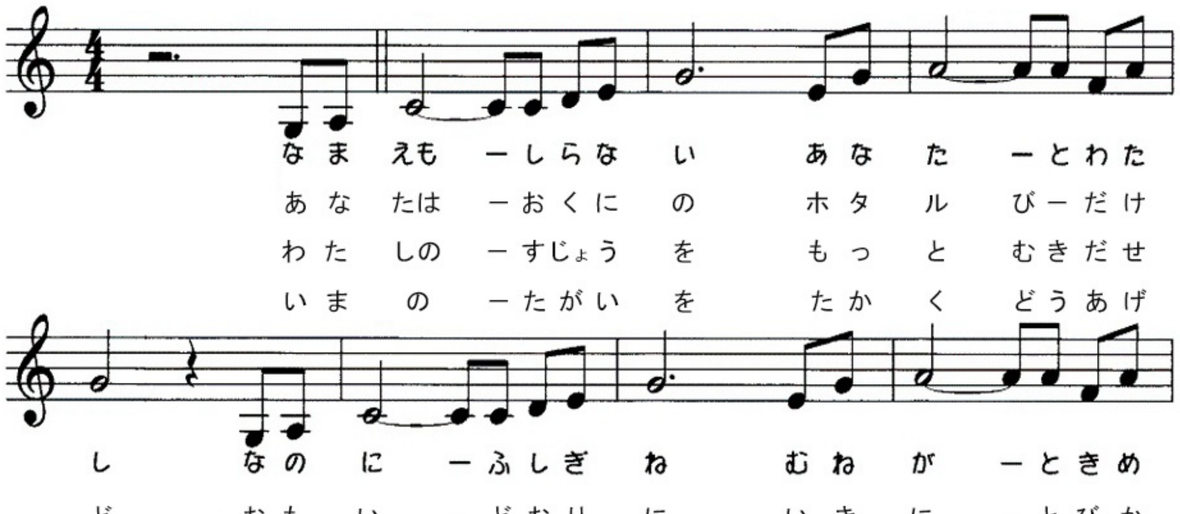
三、景色もいいけど　こちらのお店（８・７）
素敵な飾り　美味しい食べ物（７・８）
視線も買い物　端（はし）から隅（すみ）へ（８・７）
ロマンが道分け　ブラブラと（８・５）
女心（ごころ）は　ムード（右脳）で旅をする（７・９）

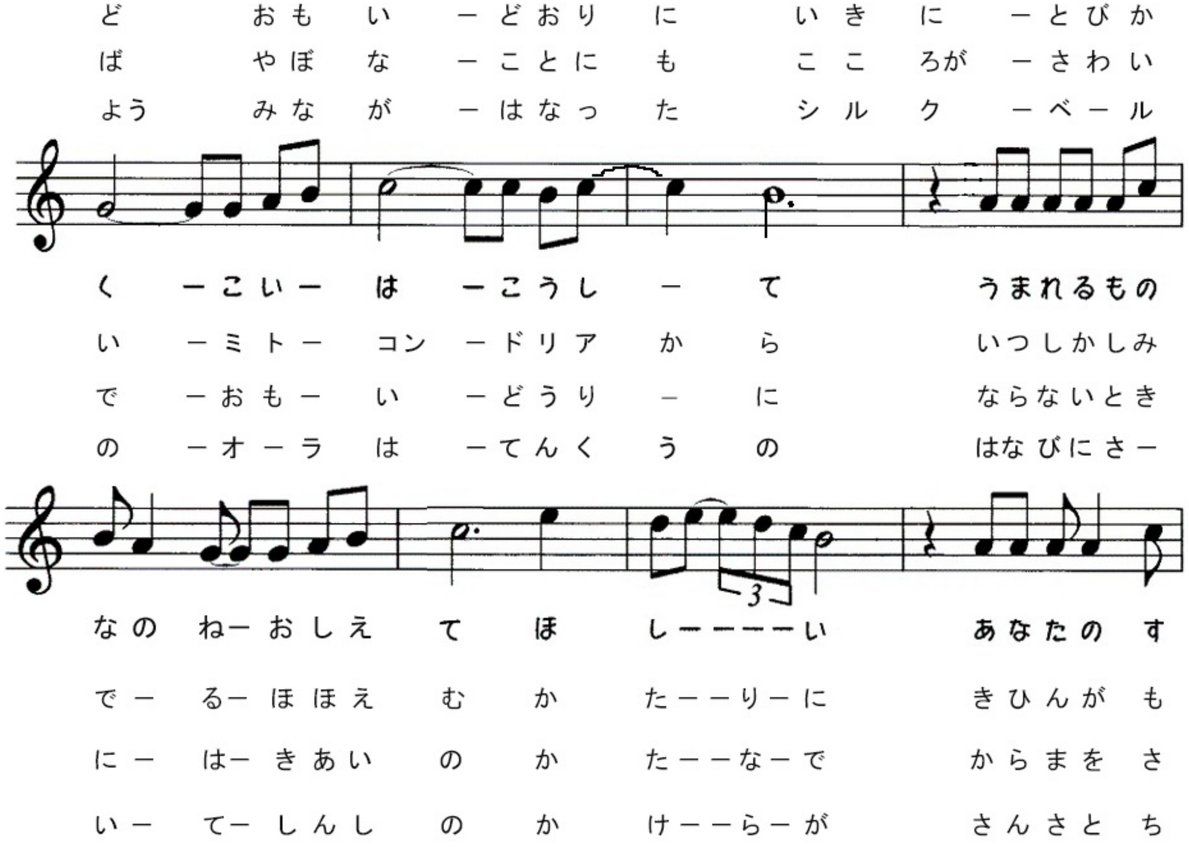
（仲間）

四、貴方と私は　こっちに行くよ（８・７）
そちらの方は　お好きな所へ（７・８）
仲間とウキウキ　素敵な時間（８・７）
日中（ひるま）は気に召す　華園に（８・５）
夜は皆（みんな）で　リッチにパーティーよ（７・９）

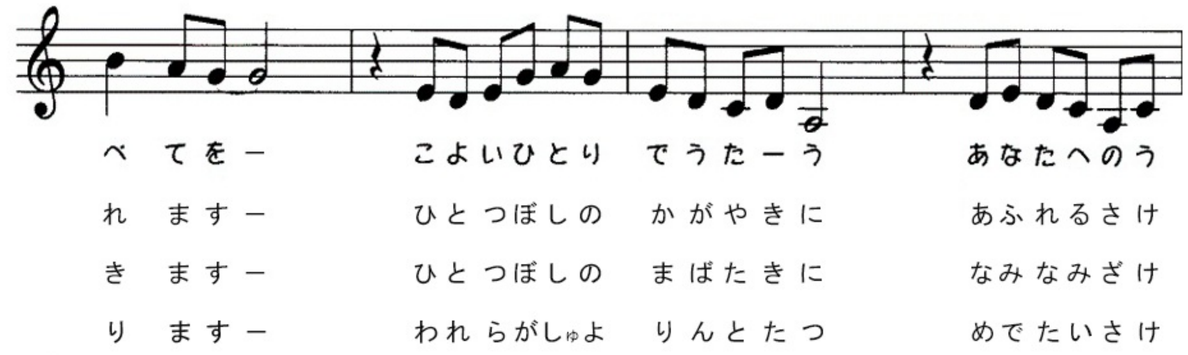
（注１）音符直下の歌詞は、原曲「旅にでませんか（歌唱－葵ひろ子／作詞・作曲；世久　遊）」の１番目の歌詞
（注２）替え歌の詩（短歌・和讃）は大沼香作　2015（H27）年12月4日（金）

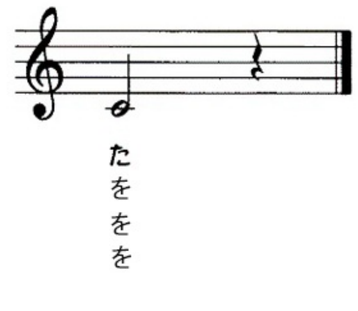
N14　みんながそれぞれ凛と咲く





（原曲は「あなたのすべてを」の替え歌）





（※１）五線譜直下の歌詞は、原曲「あなたのすべてを」（歌唱；伊東ゆかり／作詞曲；佐々木勉）の１番目の歌詞

（※２）替え歌の詩は大沼香作2016(H28)月2月20日（日）

（※３）ミトコンドリアとは、人間の細胞の中でエネルギーを生産している微小の器官

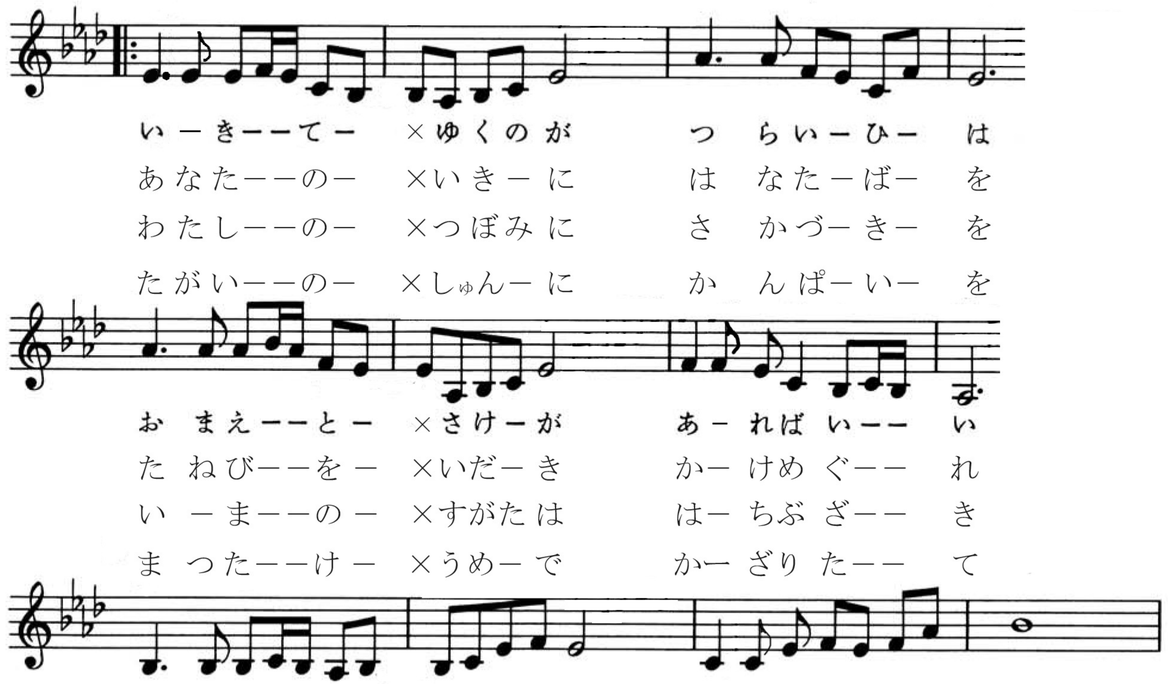
一、貴方は御邦のホタル灯だけど
思いどおりに粋に飛び交い
ミトコンドリアから何時しか染み出る
微笑む語りに気品が漏れます
一つ星の輝きに、溢れる酒を

二、私の素性をもっと剝き出せば
野暮な事にも心が騒いで
思いどおりにならない時には
気合の刀で空間を裂きます
一つ星の瞬きに、なみなみ酒を

三、今の互いを高く胴上げよう！
皆が放ったシルクベールの
オーラは天空の花火に咲いて
真摯・深思の欠片が
燦々と散ります
吾らが主よ凛と立つ、めでたい酒を

N15　鯛・海老、てんこ盛りの唄

（原曲「ふたり酒」）



一、貴方の粋に　花束を
種火を抱き　駆け巡れ
知友の人と　燃え盛り
街の栄えの　夢を継ぐ
溢れる酒に　真鯛を活き造る

二、私のつぼみに　盃を
今の姿は　八部咲き
皆の蜜を　吸い寄せて
四季を紡いで　満開よ
波々酒に　美海老を活き作る

三、互いの旬に　乾杯を
松竹梅で　飾り立て
宴の舞台を　拵えた
野暮のままでも　爽やかさ
雅の和気に　肴と酒を盛る

（注1）音符直下の歌詞は、「ふたり酒（歌唱－川中美幸／作詞；たかたかし／作曲；弦哲也）」の１番目の歌詞

（注２）替え歌の詩は大沼香作 2016(H28)年2月20日（日）

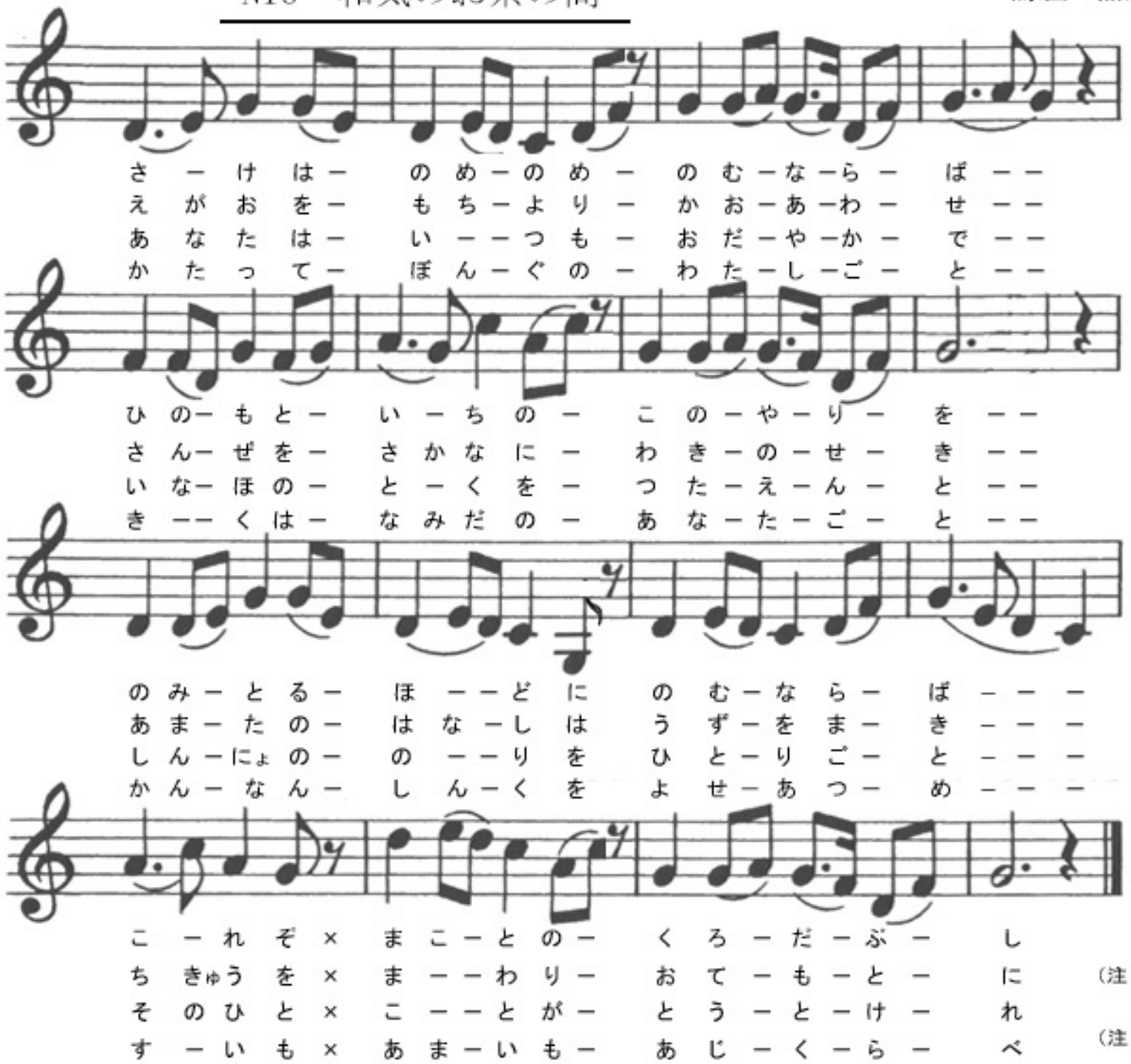
N16　和気のお茶の間

（原曲「黒田節」）

一、笑顔を持ち寄り顔合わせ
三世を肴に和気の席
（過去・現在・未来）
数多の話は渦を巻き
地球を廻りお手元に

二、貴方はいつも穏やかで
稲穂の徳を伝えんと
真如の法を独り言
その一言が尊とけれ

三、語って凡愚の私ごと
聞くは涙の貴方ごと
艱難辛苦を寄せ集め
酸いも甘いも味比べ

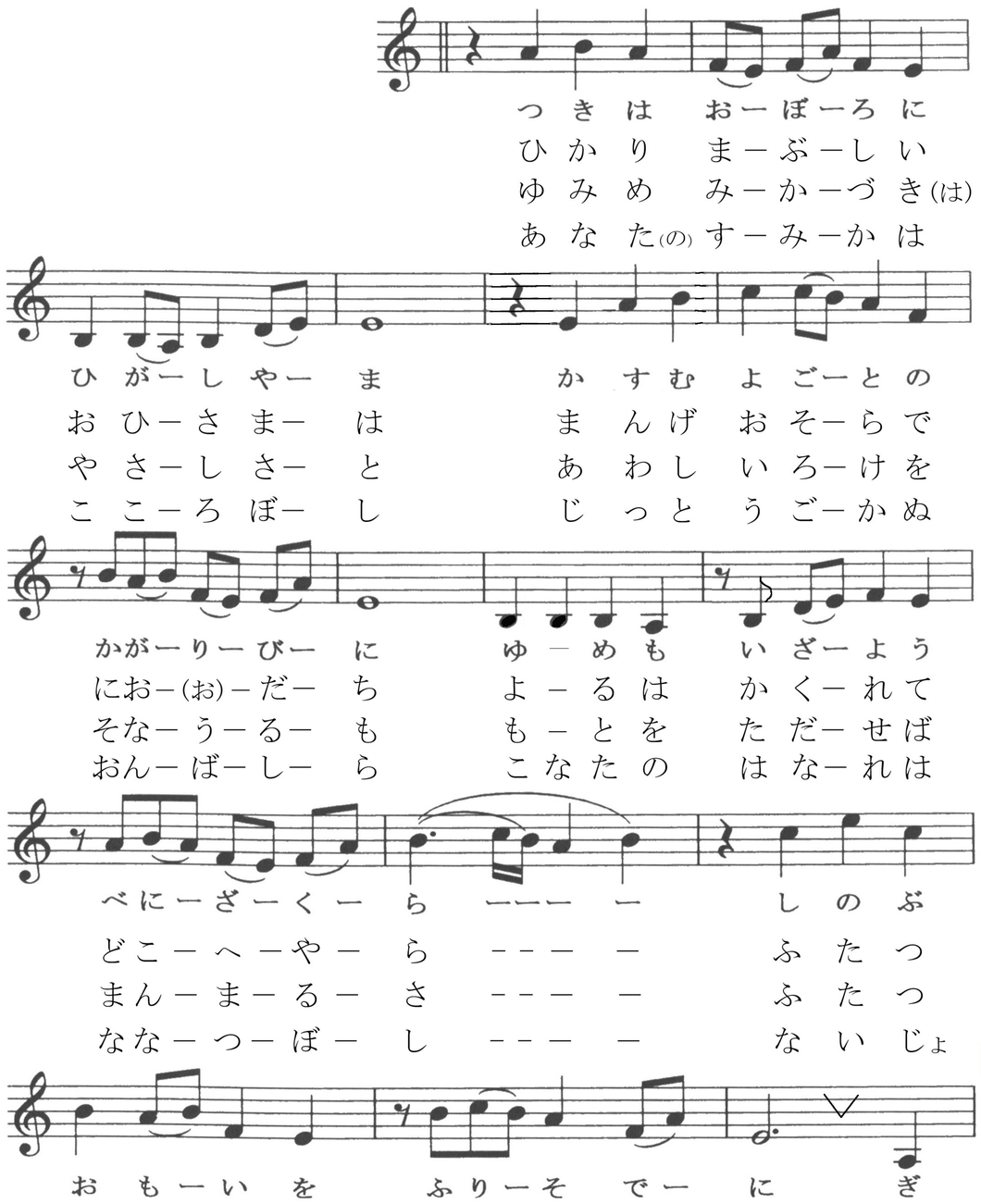


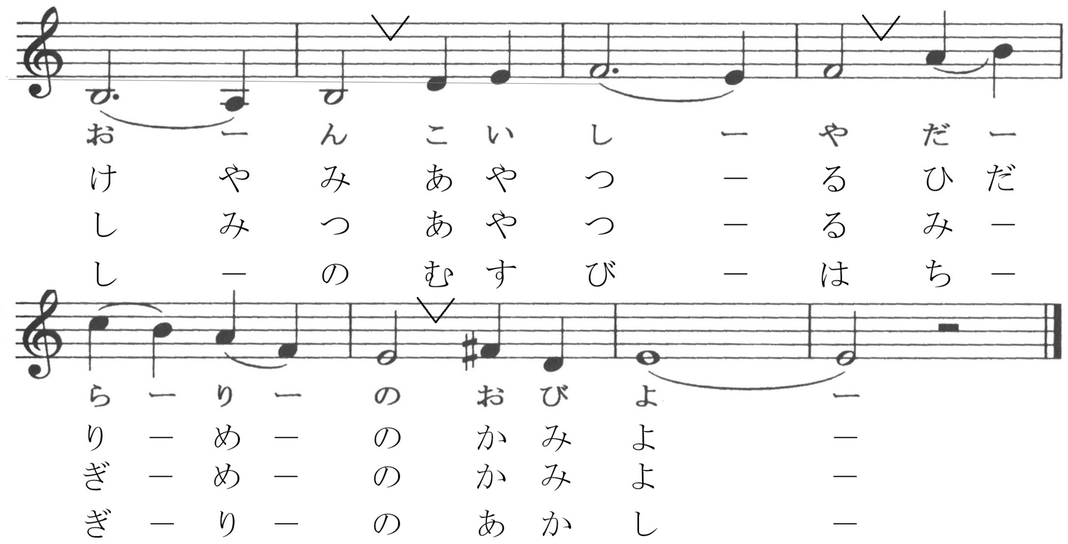
（注１）音符直下の歌詞は、「黒田節（福岡市の黒田節、誕生の地は京都市伏見」の１番目の歌詞

（注２）替え歌の詩は大沼香作　2017(H29)年1月23日（月）

N17　陽陰中は「日(陽)・月(陰)・星（北辰・中）」の詩

（原曲「祇園小唄」）





【北辰（ほし・ほくしん）】　（女）月　（男）日

光眩（まぶ）しいお陽（ひ）様は（日）
万華宇宙（まんげおそら）で仁王（におう）立ち
夜（よる）は隠れてどこへやら

二つ美技（みわざ）をお陽（ひ）に観る（日）
明暗（あけ・やみ）　操（あやつ）る左目（ひだりめ）の神よ

弓目（ゆみめ）三日月（は）やさしさと
淡（あわ）し色気を備うるも
元（もーと）本（ただ）を質せば真ん丸さ

二つ美技（みわざ）を月（つき）に観る
干満（ほし・みつ）　操（みーぎめ）る右目の神よ

貴男（あなた）（の）住処（すみか）は心星（こころぼし）
北極星（男）
じっと動かぬ御柱（おんばしら）

貴女（こなた）の離れは七つ星（ななつぼし）
北斗七星（女）
内助貫（つら）ぬくたおやかさ

北辰（ほし）の結びは契りの証（あかし）

（注１）音譜直下の歌詞は、「祇園小唄（作詞：長田幹彦／作曲：佐々紅華）」の１番目の歌詞

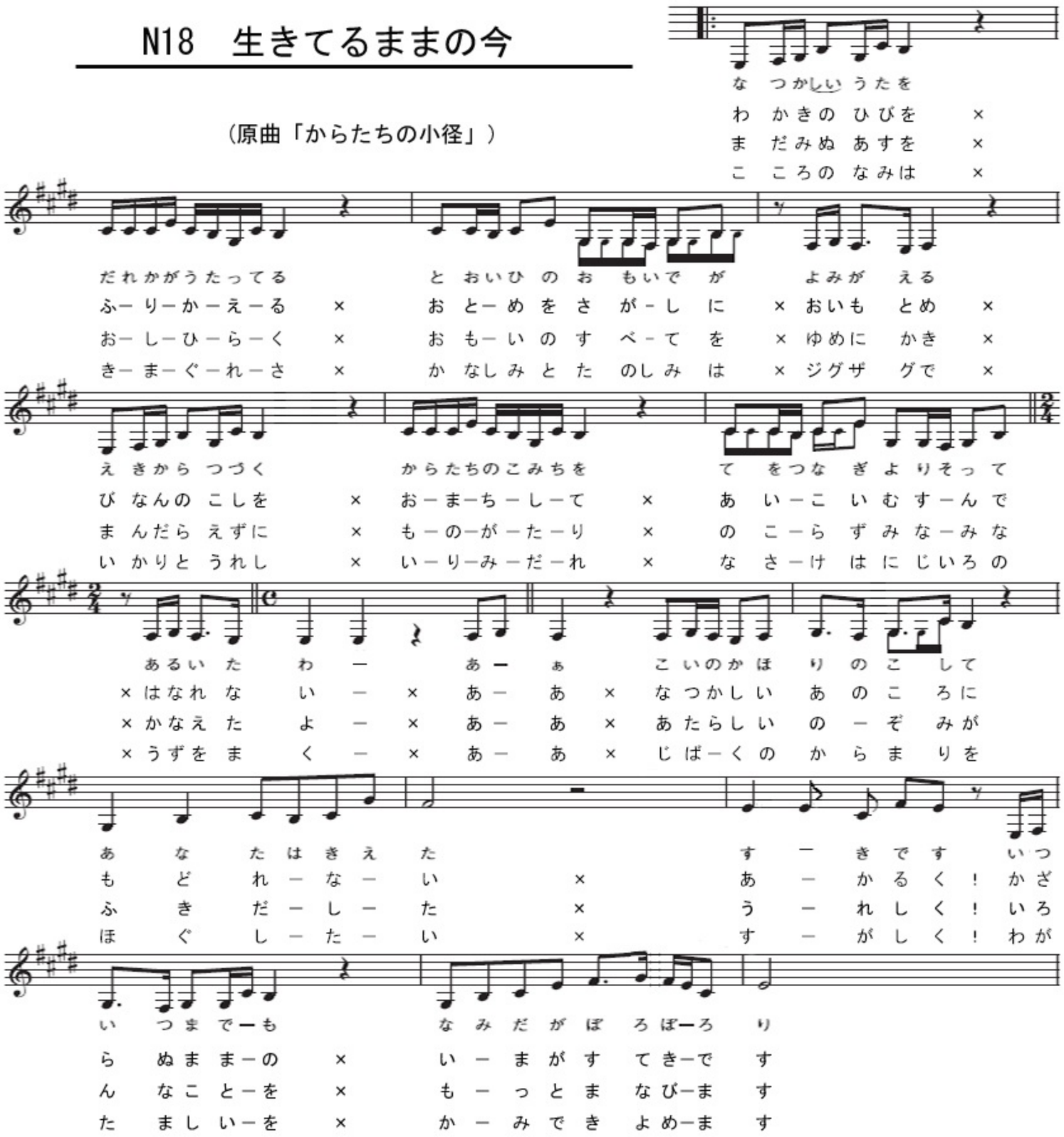
（注２）替え歌の詩は大沼香作 2017(H29)年2月3日（金）

（※１）天照大御神（太陽、左目の神）と月讀大御神（月、右目の神）は
『イザナギとイザナミ』が禊をした時に生まれた神様

（※２）ここの北辰（ほし・ほくしん）とは、不動の北極星（男）と北斗七星（女・２４時間で北極星を一回り）をいう。

N18　生きてるままの今

（原曲「からたちの小径」）



※火（＝か＝情熱）と水（＝み＝冷静さ）～両極（神）の力を以って心の魂を浄化！

一、若きの日々を振り返る
乙女を探しに追い求め
美男の越しをお待ちして
愛・恋結んで離れない・
・・・（しかし、）・・・

（過去＝過ぎ去しこと）

［実現←］
ああ　懐かしいあの頃に戻れない
あかるく！
飾らぬままの今が素敵です

二、まだ見ぬ明日を押し開く
思いの全てを夢に描き
曼荼羅絵図に物語り
残らず皆々叶えたよ・
・・・（しかし、）・・・

（未来＝未だ来ぬこと）

［実現←］
ああ　新しい望みが噴き出した
うれしく！
色んなことをもっと学びます

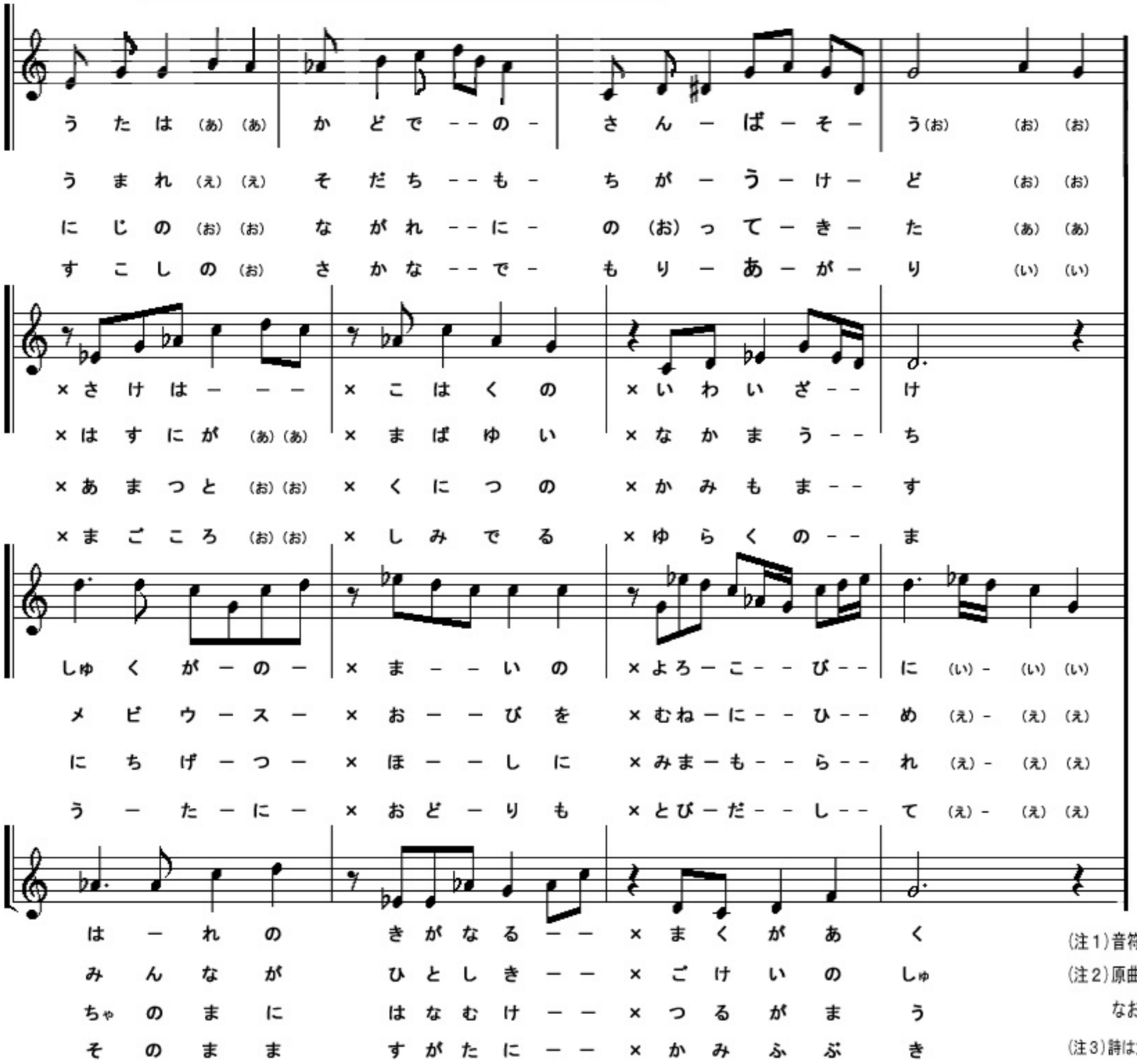
三、心の波は気まぐれさ
哀しみと楽しみはジクザクで
怒りと喜し入り乱れ
感情は虹色の渦を巻く・
・・・（しかし、）・・・

［時　今　く　が　も　←］
ああ　自縛の絡まりを解したい
すがしく！
吾が魂を火水で浄めます
（神）

（注１）楽譜・原曲は、「からたちの小径（歌唱－南こうせつ／作詞－喜多條忠・南こうせつ、作曲；南こうせつ）」
（注２）替え歌の詩は大沼香作 2017(H29)年2月20日（月）

N19　みんなが主役の愉楽の時よ

（原曲は「祝賀の舞」の替え歌）



一、生まれ育ちも違うけど
蓮似がまばゆい仲間うち
メビウス帯を胸に秘め
皆が等しき互敬の主

（承・起）

二、虹の流れに乗って来た
天津と国津の神も座す
日月星辰に見守られ
茶の間に餞　鶴が舞う

界像想＝（転）

三、少しの肴で盛り上がり
真心染み出る愉楽の間
歌に踊りも飛び出して
そのまま姿に紙吹雪

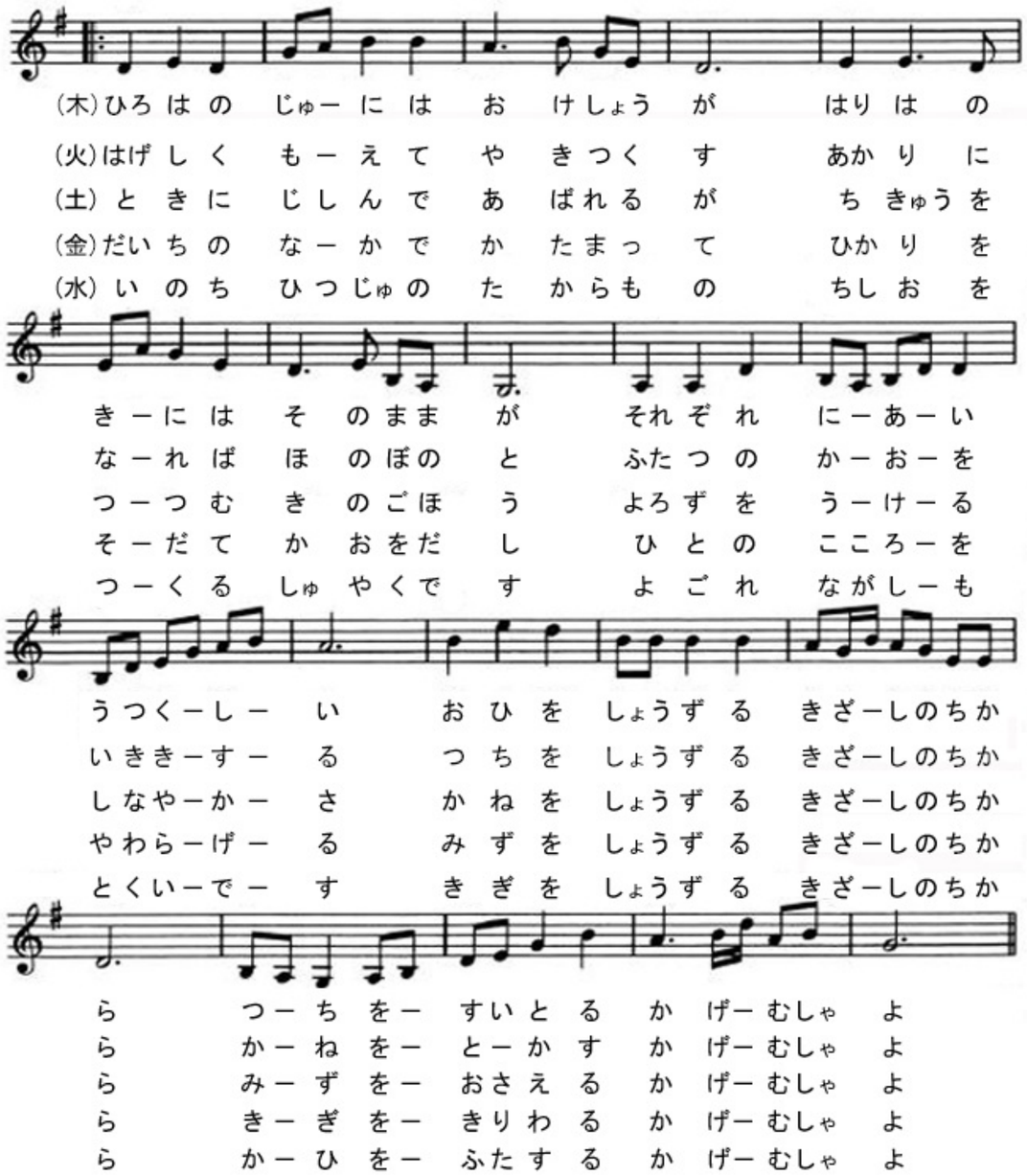
（結）

（※）星辰（ほし・せいしん）とは、
不動の北極星と北斗七星と
数多の星

（注１）音符直下の歌詞は、「祝賀の舞ー（歌唱ー大塚文雄／長谷川洋・作詞／細川潤一・作曲）」の一番目の歌詞
（注２）原曲の楽譜入手不可のため、楽譜起こし（写音）は山形市岩波石行寺の佐藤亮照住職に依頼した。
なお、私の歌い方に合わせるために、私が本の少し修正した。
（注３）詩は大沼香作 2017(H29)年2月7日（火）

N20　五行循環「木・火・土・金・水」気の詩

（原曲は「なみだ恋」）



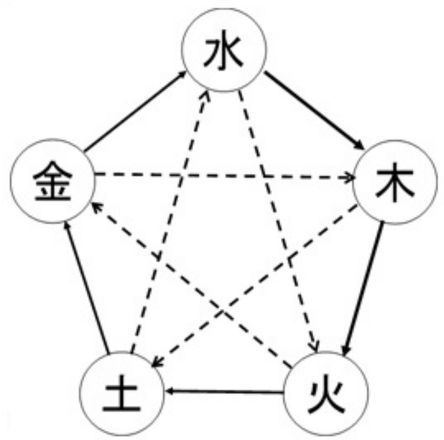
【木】広葉の樹には　お化粧が
針葉の木には　そのままが
それぞれ似合い　美しい
(女心)太陽を生ずる　萌芽の力 ※2
(男心)土を吸い取る　影武者よ ※2

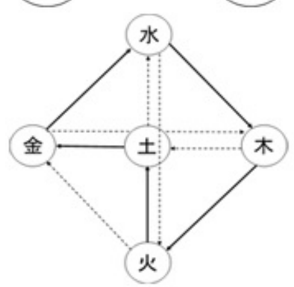
【火】激しく燃えて　焼き尽くす
灯りになれば　ほのぼのと
二つの顔を　行き来する
(女心)土を生ずる　萌芽の力
(男心)金を溶かす　影武者よ

【土】時に地震で　暴れるが
地球を包む　黄の御袍 ※3
萬を受ける　しなやかさ
(女心)金を生ずる　萌芽の力
(男心)水を抑える　影武者よ

【金】大地の中で　固まって
光を育て　顔を出し
人の心を　和らげる
(女心)水を生ずる　萌芽の力
(男心)木々を割り切る　影武者よ

【水】命必需の　宝もの
血潮を作る　主役です
汚れ流しも　得意です
(女)木々を生ずる　萌芽の力
(男)火々を蓋する　影武者よ





（※1）五行の色配当は、木＝青、火＝赤
土＝黄、金＝白、水＝黒

（※2）相生関係の内包力を女に喩え、
相克関係の内発力を男に喩えた。

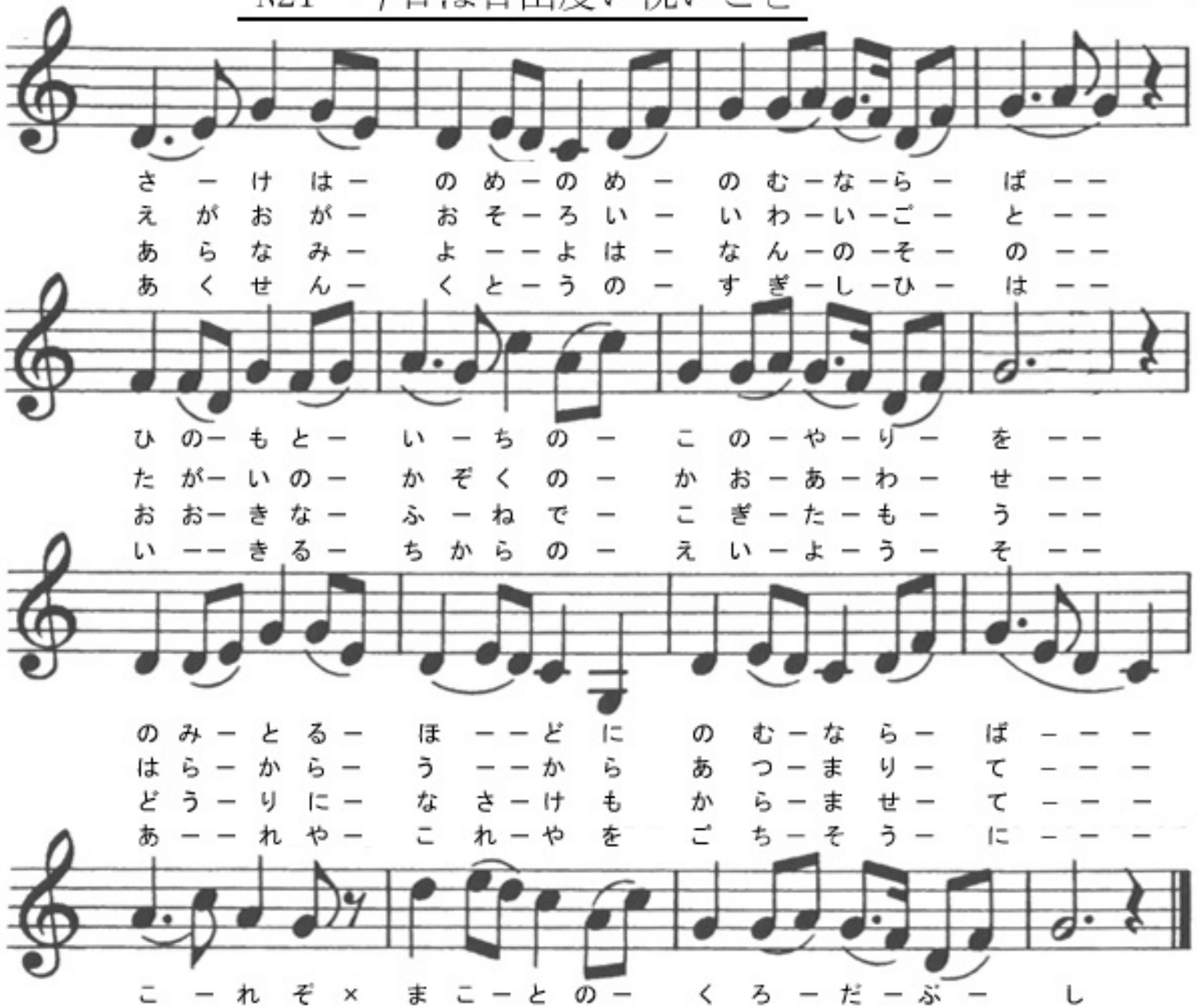
（※3）黄の御袍とは、日本の天皇が重要
な儀式の際に着用する装束

（注１）楽譜・原曲は、「なみだ恋（歌唱－八代亜紀／作詞・悠木圭子、作曲；鈴木淳）」

（注２）替え歌の詩は大沼香作 2017(H29)年2月1日（水）

N21　今日は目出度い祝いごと

（原曲「黒田節」で替え歌）



一、笑顔がお揃い祝いごと
互いの家族の顔合わせ
はらからうから集まりて
清けし目出度い晴れ舞台

二、荒波世々は何のその
大きな船で漕ぎ給う
道理に情けも絡ませて
探し求めよ（南）十字星

三、悪戦苦闘の過ぎし日は
生きる力の栄養素
あれやこれやをご馳走に
世代を結ぶ祝い酒

（注１）音符直下の歌詞は、「黒田節（福岡市の黒田節、誕生の地は京都市伏見」の１番目の歌詞
（注２）替え歌の詩は大沼香作　2017(H29)年12月3日（日）